

〈技術資料〉

屋根材の劣化症状とメンテナンス塗装

西村 信國

1. はじめに

住宅の屋根には、従来、内陸部の南では日本瓦が多く用いられ、東北、北海道などになれば、滑雪性の問題からトタンなどの金属屋根が多く見られる。この他、沖縄ではセメント瓦が多用されたり、地震国の関係で、耐震性を高めるために軽量の薄型塗装瓦が、近年用いられるようになるなど、今では多種多様の屋根材が用いられている。また、屋根は外壁と異なり、太陽光が直接、当たるため、紫外線の影響で外壁より劣化の進行が速い。更に、日本では、屋根に用いられる色相は黒や焦げ茶などの濃色系が多いことも特長として挙げられる。

また、近年では、省エネ、ヒートアイランド対策から、遮熱塗料（高日射反射率塗料）が注目を集めている。

今回、このような時代的背景を考えながら、屋根の塗替えについて、考えていきたい。

2. 屋根の種類と下地処理、施工工程

先述したように屋根には様々な種類がある。素材では、粘土の他、石、ガラス、金属、セメント、コンクリート、スレート、アスファルトなどがある（図1）。また、同じ粘土瓦で同じような形状をしていても、素材・仕様が異なれ

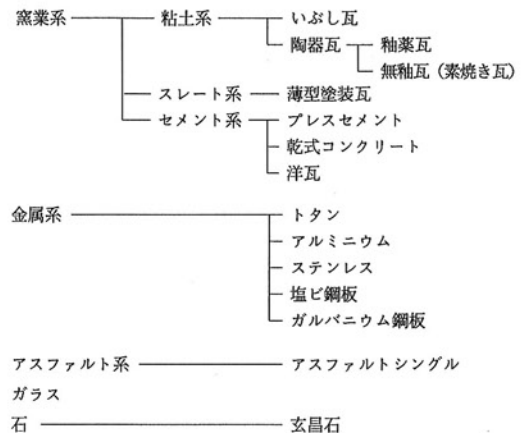
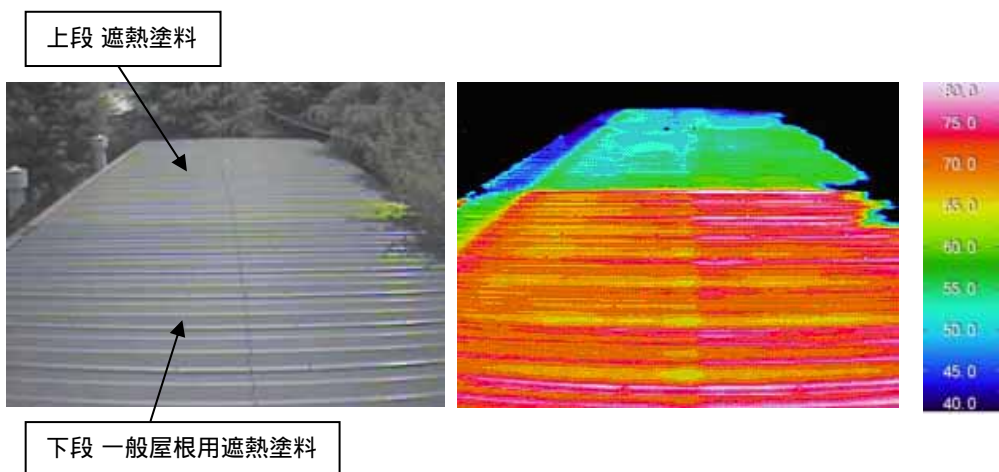


図1 屋根材の種類

ば、全てに塗装できるとは限らない。いぶし瓦のように塗装できないものも存在することから、素材の見分け方が重要になる。特にセメント瓦と陶器瓦は、プロが見てもよく見なければ区別のつかないものがある。それぞれの特長と下地の種類に応じた下地処理の方法を表1に示す。また、それぞれの下地の種類に応じた塗装仕様例を図2に、一般的な施工手順を図3に示す。

このように、下地の種類に応じて3～4工程が必要となる。注意すべき点は、下塗り材の選定である。陶器瓦は表面が緻密なため、下地への浸透力に優れた溶剤形の2液反応硬化タイプを推奨している。また、薄型塗装瓦、乾式コンクリート瓦、セメント瓦へは環境への配慮から、強溶剤形を用いず、弱溶剤形で2液反応硬化型のエポキシ系プライマーを推奨している。この他、アスファルトシングルは、耐久性に優れた

2011年1月31日受付
NISHIMURA Nobukuni



VOL.46 No.3 図5 P.94